

平成27年 9月 27日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 筑波大学附属駒場高等学校・多尾奈央子

2. 講師氏名: Joseph Rogers 博士

3. 同行者氏名: 同行なし

4. 実施日時: 平成 27年 9月 26日 (土) 10:30 ~ 12:20

5. 参加生徒: 中学3年生 13人
備考: 総合学習選択講座でサイエンスダイアログ講座を選択した生徒

6. 講演題目: Wales, United Kingdom / Proteins are “words” / protein folding

7. 講演概要:

- ✓ United Kingdom introduction / Where is Wales?
- ✓ Welsh culture: foods and sports
- ✓ Education system in England and Wales. Why did I move to England?
- ✓ Cambridge University / Important people from Cambridge and their discoveries
- ✓ Protein Molecules / How big are proteins?
- ✓ Proteins have to be folded to function
- ✓ My PhD – the speed of protein folding
- ✓ English is essential

8. 使用言語: 英語

9. 講演形式:

(1) 講演時間 90 分 質疑応答時間 20 分

(2) 講演方法: プロジェクター使用による講演

(3) 通訳: なし

(4) 事前学習時使用教材: 講師からの Lecture Summary および Glossary。

10. 学校からの支給経費: 謝金

11. その他特筆すべき事項:

事前資料をいただいた後も再度念を押すために連絡をし、①とにかく専門的内容の説明については日常的な例に当てはめてほしい、②話すスピードはゆっくり、③発話は clear に、④逐一生徒の表情を観察し、理解度確認して再度説明を加えたり、paraphrase したり、ポイントごとに質疑応答の時間を求めていますと依頼しました。当日お越しいただいたときに再度同じ内容を確認しました。実際の講義は上記の点をとても意識され、かつ聴取者が中学生であるということを十分に踏まえた雰囲気づくり、言い換え、対応をしてくださり、生徒への学習意欲が大い

に刺激されるもので大変良いものでした。

研究者は教育者ではないのご意見を以前いただきましたが、研究を生業とする以上、過程や成果を次の世代に引き継いでいくことは必至です。この点で自己完結のような話し方や講義ではなく、聴取者に理解してもらおうと努める姿勢は大事です。今回の講師は自分の携わる研究について、一般の人間に実生活のことと関連付けて、理解できるような言葉で話し、途中で理解度を確認し、さらにこの研究の必要性は何かをしっかりと分かってもらおうと伝えようと努められました。さらに、どんな分野でも「研究」をするには外国語学習は不可欠であることを、ご自身の研究生活でのご経験からいかに英語を使用する場面ばかりかを話され、研究分野への誘いもさることながら、英語学習への動機づけも大いにしてくださった方でした。

伝えよう、理解してもらおうという熱意の伝わる講義でした。生徒がいかに有意義な時間を過ごせたか、写真の表情でもうかがえます。(よってこれまでの高校の回の写真はお送りしていません)